



# 国際交流支援事業について ～各地方自治体の取り組みについて～

(一財)自治体国際化協会交流支援部交流親善課

## 国際交流支援事業について

クリアでは、地方自治体や地域国際化協会が主体的に行う国際交流事業のうち、交流の拡大や発展が見込まれ、地域住民などの幅広い参画が見込まれる事業に、対象経費の一部を助成しています。

今回、2021年度に助成を行った事業の中から、その取り組みを紹介します。

こうした取り組みを参考として、さらに多くの活発な国際交流が行われることを期待しています。

### 【対象事業】

- 姉妹提携又は友好提携に係る記念事業
- 文化、芸術又は研究に関する交流事業
- 青少年交流に関する事業
- 国際会議に関する事業
- その他地域の特性を活かした交流事業

原則として、新規事業が助成の対象ですが、継続的に行われている事業であっても、他の自治体や地域国際化協会のモデルとなるような先駆的な事業であれば対象となります。

### 【対象団体】

都道府県、市区町村、地域国際化協会

### 【助成金額】

助成対象経費の1/2以内、上限は以下の金額

海外で行う事業・・・500万円

国内で行う事業・・・300万円

### 【国際交流支援事業掲載 HP】

<http://www.clair.or.jp/j/exchange/shien/page-5.html>

### 【お問い合わせ】

2022年度事業は9月頃より募集開始予定です。

交流支援部 交流親善課

Tel:03-5213-1723 Mail:koushin@clair.or.jp

## 「青少年平和学習交流事業」

千葉県市川市

市川市とフランス共和国のイッシー・レ・ムリノー市は、2012年にパートナーシティを締結した後、青少年交流をはじめとした様々な交流を行っています。

2021年は、東京五輪の開催期間に同市の青少年10名を受け入れる予定でしたが、断念し、滞在中に行う予定だった平和学習をオンラインを活用して2回開催しました。市川市からも大学生など10名が参加し、講師による基調講演の後、グループ毎に意見交換を行いました。

第1回では被爆者の方に広島での被爆体験をお話しいただきました。イッシー・レ・ムリノー市の青少年には原爆について学ぶ機会がなかったと話す学生もおり、国により平和学習の機会が異なるという事実を知りました。

第2回では大学教授を招き、SDGsと平和についてご講演いただきました。意見交換で普段からSDGsを意識した行動をどのようにとっているかを披露しあうなど、平和の希求という切り口からSDGsへの意識を高める良い機会となりました。

本市ではオンラインを活用した交流は初めての試みでしたが、両市の青少年が手を取り合いながら平和な未来を創造していく一つのきっかけとなったものと考えております。

新型コロナウイルス感染症の収束が不透明な中、対面での交流の再開がいつになるかわかりませんが、新たな交流形態を企画するチャンスと捉え、今後も積極的に開拓していきたいと思っております。



会場での交流の様子



関係者用ブースでは交流の様子を放映

## 「静岡県・モンゴル国ドルノゴビ県 友好協定 10 周年記念事業」 静岡県

静岡県がモンゴル国ドルノゴビ県と友好交流を締結して、2021年に10周年を迎えました。当初はこれを記念し、相互に知事団を派遣して祝う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により相互訪問が困難となりました。そこで、オンラインで記念式典を開催し、友好交流継続の気運を醸成するとともに、県民のモンゴルに対する興味、関心を喚起するため、様々な文化体験イベントを実施することとしました。

文化体験イベントについては、5月の「キリル文字体験会」に始まり、モンゴル人の記憶力の高さに焦点を当てた「メモリーアスリートの世界」など、多くがオンラインでの開催でした。画面越しではありましたが、臨場感のある体験会になると同時に、モンゴル人講師などを含む参加者同士の温かみのある交流も行われました。

10周年の集大成として、1月には、両県知事出席の下、オンライン記念式典を開催しました。交流の大きな柱の1つが高校生による相互訪問であることから、記念パフォーマンスは両県の高校生による演目としました。

静岡県からは、モンゴル書道と和太鼓、ドルノゴビ県からは、日本の「ふるさと」の合唱と舞踊団による演舞が行われました。共に優れた映像と、心のこもったメッセージにより、これまでの友情と、交流の継続を確認する節目として相応しい式典になりました。

本県はドルノゴビ県と、教育、スポーツ、農業、介護など、様々な分野でのより一層活発な交流を推進してまいります。



キリル文字体験会



唯一対面で開催したモンゴル書道体験会

## 「豊田市・デトロイト市姉妹都市提携 60 周年記念事業」 愛知県豊田市

豊田市とアメリカ合衆国デトロイト市は、「クルマのまち」が縁となり、1960年に姉妹都市提携を結びました。それ以来、学生の相互派遣を中心に交流を継続し、2020年に姉妹都市提携60周年を迎えました。

姉妹都市提携60周年を記念し、2020年度と2021年度に記念事業を実施しましたので、一部を紹介します。

①記念式典の開催…「記念映像」や「デトロイト市マイク・ダガン市長およびゲアリー・シェイファー在名古屋米国主席総領事、過去の派遣学生から頂戴したお祝いメッセージ」を上映しました。

②交換学生OBによる記念講演…交換学生1期生と



してデトロイト市を訪れ、その後外交官として活躍された中根猛氏をお招きし、「世界と向き合い、世界で働く」と題して、当時のデトロイト市での経験やその後の人生に与えた影響などをご講演いただきました。

③米国デトロイト市へGO！パスポート de スタンプラリー…市街地をスタンプラリーで回りながら、デトロイト市の名所・旧跡の雰囲気を感じ、姉妹都市交流の軌跡をたどるスタンプラリーを開催しました。

④OB・OG 交流会…過去にデトロイト市との学生の相互派遣事業に参加、協力いただいた方をお招きし、当時の思い出を共有しながらポスターを作成するワークショップを行いました。

今回の記念事業を通して、60年の長きに渡る姉妹都市交流の歴史を改めて認識するとともに、今後のより一層強力なパートナーシップを築いていくことを確認する素晴らしい機会となりました。



OB・OG 交流会の様子



姉妹都市提携 60 周年記念講演会の様子

## 「アジア低炭素化センター開設 10 周年 成果報告会事業」 北九州市

2021 年 11 月 24 日、北九州市では、新型コロナウイルス感染症の影響により 1 年間延期していた「アジア低炭

素化センター開設 10 周年成果報告会」を開催しました。

2010 年、本市、(公財)北九州国際技術協力協会、(公財)地球環境戦略研究機関が連携してセンターを設立し、公害克服経験を活かした技術や知見の海外移転、市内企業による環境ビジネスの海外展開支援などにより、東南アジアを中心とした地域での温室効果ガス削減に取り組んできました。

成果報告会では、小宮山宏センター長の基調講演、10 年間の成果報告、海外展開している市内企業による環境技術紹介が行われました。また、環境姉妹都市のインドネシア共和国スラバヤ市長とフィリピン共和国ダバオ市長から寄せられた祝賀ビデオメッセージを上映しました。

本市は、2020 年 10 月、2050 年までに脱炭素社会の実現を目指す「ゼロカーボンシティ」を表明しました。産業都市における「環境と経済の好循環」による「北九州モデル」を構築・展開し、国内外の脱炭素化に貢献することを目指しています。センターの活動が「低炭素化」から「脱炭素化」へと大きな変化を迎える今、この報告会を契機として一層の機能強化を図ってまいります。

なお、スラバヤ市での事例を描いた漫画をホームページで紹介しています。(https://asiangreencamp.net/)



北九州市長による成果報告



サラ・ドゥテルテ ダバオ市長のビデオメッセージ